OSSプロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの実態調査

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1042067　関口　元基

1．研究背景

　オープンソースソフトウェア（以下OSS）を利用したプロジェクトが増えてきている.（句読点は全角）（次の段落の最初を字下げする）

OSSとはソフトウェアの設計図にあたるソースコードを，インターネットなどを通じて無償で公開し，誰でもそのソフトウェアの改良，再配布が行えるようにすることでありそのようなソフトウェアの名称である．オープンソースのソフトウェア開発のためには，バージョン管理システムやWiki，バグ追跡システム，メーリングシステムがよく利用される．これらのツールをまとめて提供するのがホスティングサイトであり，その代表的なものにGitHubがある． （ここから）現在，OSSプロジェクトの開発者は毎日コードを書いたりレビュ－をしたり，バグレポートを書きバグをについて議論したり，ドキュメントやwikiを更新するなど，何百ものプロジェクトに貢献している．しかし，こうした活動を通じて生まれたデータをアーカイブ化して分析することは難しい．私たちの身近な問題としてプロジェクトを行う上で共有サーバ上に保存したデータがほかのメンバによって上書きされてしまいデータが消えてしまうことがある．また，データファイルの更新時，ファイル名が同じであるファイルをメンバが操作してしまうと，更新日がばらつきどのファイルが最新なのかを把握できなくなってしまうリスクが発生してしまう．そのようなときに便利なものがGitHubである．（ここまでが冗長）GitHubの登場により，ソフトウェア開発の内情を調べることが容易になっており，たとえば，ソースコードの変更履歴を調べれば，その開発状況を調べれば（「調べれば」が続いている）その開発過程を知ることが可能であるし，バグ追跡システムの履歴を調べれば，開発者同士のコミュニケーションの様子もしる（「知る」と「しる」，どちらかに統一）ことができる．これによりソフトウェア開発が盛んになり，OSSプロジェクトでの（何の？）利用頻度は増えてきている.[1]（文献番号は句読点の前に書く）（以下は目的）OSSプロジェクトではどのようなプロジェクトマネジメントの手法が使われているのかを調査・研究し，管理体制の向上やマネジメント手法を提案することで更なる（何に対する？）効果を期待できるのではないかと考えた．

2．研究目的

　GitHubなどのネット上で公開されているOSSを調査し，ソフトウェア開発の実態を明らかにする．GitHubからは，成果物(ソースコード)（こういう括弧は全角）以外にも，ソフトウェア開発にかかわるさまざまな情報を引き出すことができるため，それらを収集して解析することによって，OSS開発における，プロジェクトマネジメントの実態や課題を明らかになることが期待できる．

3．研究方法

　本研究では，現在のOSSの実態を調査し，算出されたデータを収集し，それを統計あるいはデータマイニング的な手法で解析することによって，OSSプロジェクトではどのようなマネジメントの手法が行われているかを研究する．

4．成果物イメージ

GitHub上でのプロジェクトのデータを分析し，プロジェクトの管理体制の向上やマネジメント手法を提案する報？

5．進捗状況（次の段落は字下げ）

現在の進捗状況は，OSSの実態（？）を調査し終え（たのなら卒論終了なのでは？）第1章から第5章にまとめ（「OSSとは」みたいな話なら，「背景」つまり1章だけでいいです）、（句読点を統一）第6章からのマネジメントの実態調査を行う段階までに至っている．（中間審査なので，今まで何をやってきたのか，これから何をやるのかをもっと具体的に書かなければなりませんが，今更言っても遅いですね．）

6．今後の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 日程 | 内容 |
| 2013年10月 | マネジメントの実態調査 |
| 2013年11月 | 実証分析結果を算出・統計 |
| 2013年12月 | 論文執筆，発表資料の作成 |

参考文献

[1] GitHub Social Coding : <https://github.com/>

最初の段落が長すぎます．「文章の書き方」の本で学んだように，パラグラフを意識して文章を書いてください．

テンプレにあるように，欧文はTimes New Romanにしてください．